

志摩市和具大島のアツバキミガヨラン駆除

志摩半島野生動物研究会

代表 若林郁夫

三重県

1. はじめに

アツバキミガヨラン *Yucca gloriosa* L.（通称ユッカラン）は、リュウゼツラン科に属する北アメリカ南部原産の常緑低木である。葉は細長く先端は鋭い刺状で、5～6月もしくは10月に黄白色の鐘のような形をした花を咲かせる（図1）。日本へは明治時代に観賞用として持ち込まれ、木本類としては日本で最も多く栽培されている種である（立花，1980）。ユッカガという特別な蛾が花粉を媒介することから原産地以外では人工授粉しない限り結実しないと言われている（荒俣，1990）が、近年では植物体の流出や投棄が原因と考えられる本種の野生化が進んでいる。当会が活動する志摩半島周辺でも海岸などで野生化した株が多数見られており（半田，2005）、特に三重県志摩市和具大島では本種の異常繁殖による在来植物への悪影響が深刻である。

当会では和具大島のアツバキミガヨラン駆除に2004年から取り組んでおり、今回、タカラ・ハーモニストファンドの助成（2年間）を受け、2010年から2012年にかけて5回の駆除作業を実施することができたので、実施状況について報告する。

2. これまでの経緯

和具大島は、三重県志摩市志摩町和具漁港の南方約2.5Kmの沖合に浮かぶ周囲約800mの無人島である（図2・3）。本島にはハマゴウ、ハマオモト、ハマヒルガオなどの植物が多数繁茂し、これらが1936年1月には「和具大島暖地性砂防植物群落」として三重県の天然記念物に指定されている（図4・5）。また、三重県指定の希少野生動物であるウチヤマセンニュウやアカウミガメが本島を繁殖場所としており、本島にはこの地方独特の豊かな自然が残されている。しかしながら島内には数十年前からアツバキミガヨランの異常繁殖が見られるようになり、在来の海浜植生の駆逐が問題視されるようになった。志摩町によって伐採や焼却の対策が取られた時期もあったが、伐採しても地下部（以下、根と表現する）が残るために繁殖を繰り返す結果となっていた。このような現状に危機感を抱いた当会は、環境省志摩自然保護官事務所と協議を進め、駆除に乗り出すこととなった。2004～2006年は環境省のグリーンワーカー事業として当会が駆除業務を請け負い（2005年度は一部がゴルファー緑化協力金）、一般市民からボランティアを集め、島の自然環境に配慮した人力による方法で駆除作業を実施した。2004年度は3回の作業に延べ27人が参加し1164kgを駆除、2005年度は4回の作業に延べ110人が参加し6880kgを駆除、2006年には3回の作業に延べ86人が参加し3500kgを駆除することができた。2007年および2008年については別の団体によってグリーンワーカー事業として駆除が継続され、当会はアドバイザー的

な立場で毎回の作業に参加し協力を行った。また、2009 年については駆除作業を休止して経過を観察したが、9 月の時点で各所に若い株（約 120 株）を確認した。

これまでの駆除作業によって島内のアツバキミガヨランは著しく減少したと考えられるが、掘り残した根からの発芽が依然として続いており、さらなる駆除が必要と考えられた。

3. 駆除活動

1) 予備調査

島内に残るアツバキミガヨランの現状を把握するため、2010 年 6 月 25 日に当会スタッフ 2 名が渡島し予備調査を行った。その結果、これまでに大きな株を駆除した場所に、掘り残した根から発芽したと思われる若い株を多数確認するにいたった(図 6)。株のほとんどが高さ 20~30cm 程度で、容易に発見できるものもあったが、ハマゴウやススキなどの深い茂みに紛れ込み発見しにくいものも多かった。若い株が確認された場所は図 7 の通りである。

2) 駆除作業にむけた準備

駆除作業を実施するにあたっては、環境省志摩自然保護官事務所と協議の上、各年とも諸機関への挨拶、手続き等を行った。所有者である「和具八雲神社」および立ち入り管理者である「志摩の国漁業協同組合」に駆除作業の計画書を提出し実施についての了解を得るとともに、志摩市教育委員会および三重県教育委員会に天然記念物の現状変更申請を行った。また、参加協力をお願いする文書を作成し（図 8）、主に志摩半島野生動物研究会会員、三重大学学生、環境省横山ビジターセンター・パークボランティア等に配布し協力を依頼した。さらに、渡島のためのチャーター船の手配、参加者の傷害保険の手配も合わせて行った。

3) 駆除作業

今回のアツバキミガヨラン駆除作業の実施状況を表 1 に示した。

いずれの作業日も 9:00 頃に志摩市志摩町和具漁港に集合し、チャーター船にて渡島した後、午前中 2 時間と午後 2 時間程度の駆除を実施し、夕刻に帰港する作業スケジュールであった。作業が離島で行われるため、当日の海況によっては渡島できずに作業を中止せざるを得ない場合もあり、2011 年秋には海況不良による作業中止が 5 回続き、作業ができたのは 1 回のみであった。

駆除作業においてはこれまでと同様に、在来の植物等に悪影響を及ぼさないよう小さなスコップを使った手掘りの方法を採用し、島の自然環境に配慮した。掘り出したアツバキミガヨランの植物体はすべてコンテナに詰めて島から運び出し、軽トラックでスタッフ所有の畑へ運搬後、焼却処分した。今回の助成事業によって 2010 年から 2012 年にかけて 5 回の駆除作業を実施することができ、これに延べ 42 人が参加し、合計で 72.3kg のアツバキミガヨランを駆除することができた。渡島および作業の様子を図 9~12 に示すとともに、各回に駆除したアツバキミガヨランを図 13~17 に示す。

なお、今回の和具大島での駆除作業の様子が、2010 年 9 月 14 日付けの中日新聞伊勢志摩版に掲載されたので紹介しておく（図 18）。

4. 終わりに

和具大島におけるアツバキミガヨランの駆除量の推移を図 19 に示した。2004～2007 年の作業によって大きな株のほとんどすべてが駆除されたものの、その後も少量ずつの駆除が続いている。今回の作業で駆除した株の多くは、根が途中で折れているなどの痕跡から、過去の駆除作業で取り残した根から新たに発芽した若い株と考えられた（図 20）。また、スコップによって切れたわずか数センチの小さな根の「かけら」から発芽したと思われるものもあった（図 21）。アツバキミガヨランの生命力の強さに改めて驚かされるとともに、根絶のためには小さな根の「かけら」さえも残さない丁寧な作業が必要であることを再認識する結果となった。和具大島のアツバキミガヨラン駆除も最終段階に近づきつつあると思われるが、ここで気を抜くことなく今後の駆除を続けることが、根絶に向けて非常に重要なことだと考えられる。

5. 文献

荒俣宏. 1990. 花の王国 第 1 巻 園芸植物. 159pp. 平凡社, 東京.

半田俊彦. 2005. 志摩市の砂浜海岸におけるアツバキミガヨランの分布. 三重の生きものだより, 27: 4-6.

立花吉茂. 1980. ユッカ属. *In* 園芸植物大辞典 5. 180-181, 相賀徹男 (編), 小学館, 東京.



図 1 アツバキミガヨラン（和具大島）

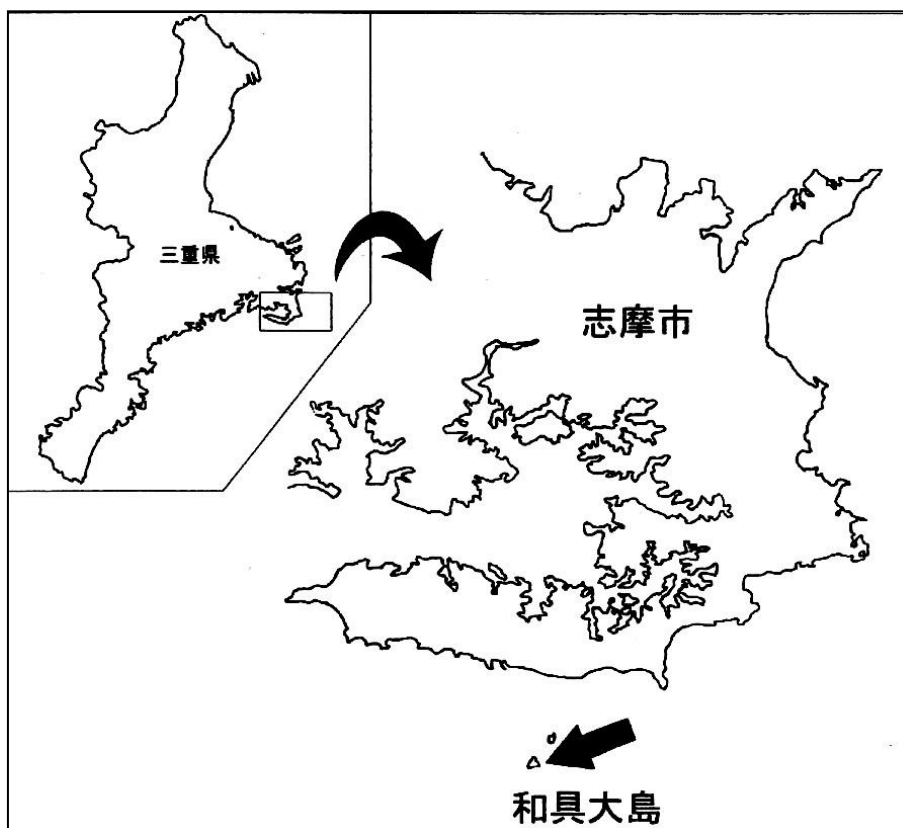


図 2 和具大島の位置



図 3 和具大島全景



図 4 島内に見られる植物群落



図 5 島内のハマオモト群落



図 6 予備調査で確認された若い株

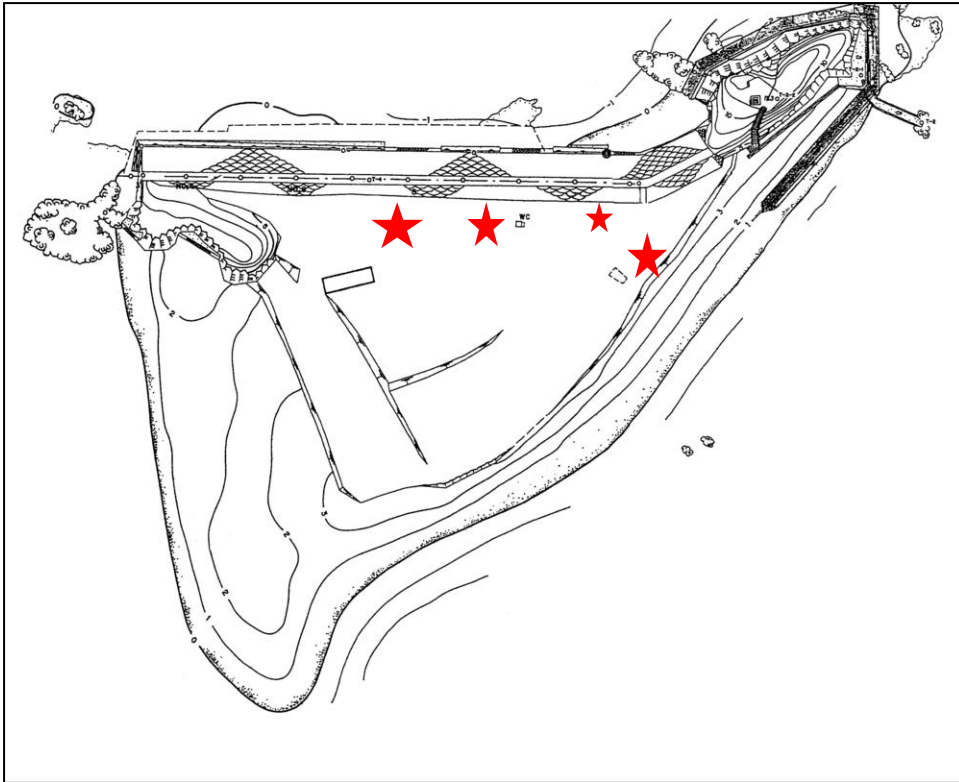


図 7 予備調査で若い株を確認した位置（星印）。星印の大きさは肥度を表す。

平成 22 年 8 月 1 日

各位
志摩半島野生動物研究会
代表 若林郁夫

和具大島のユッカラン駆除（2010 年）についてお願い

志摩半島野生動物研究会では 2004 年から環境省志摩保護官事務所と共に、志摩市志摩町和具大島の暖地性砂防植物群落を保全するため、異常繁殖する外来植物「ユッカラン」の駆除に取り組んでおります。今年も下記の通り駆除作業を実施する予定でありますので何卒よろしくご理解、ご協力の程お願い申し上げます。

1. 実施日
 - ・第 1 回 9 月 6 日（月）
 - ・第 2 回 9 月 12 日（日）
 - ・第 3 回 9 月 20 日（日）
 - ・予備日 9 月 27 日（月）、10 月 5 日（火）
 ※雨天時および波浪時は中止します。
2. 主な作業日程
 - 9:00 和具漁港集合
 - 10:00～12:00 駆除作業
 - 12:00～13:00 昼食
 - 13:00～15:30 駆除作業
 - 16:00 和具漁港にて解散
3. 作業内容

島内にあるユッカランを探し、スコップを使って植物体（葉・根などすべて）を掘り出して駆除する。また、掘り出した植物体を船に積んで港へ持ち帰る。
4. 参加者
 - ・志摩半島野生動物研究会スタッフ、県内のボランティア団体会員など
 - ・各回とも 10 名程度
5. 問合せ・連絡先

若林郁夫ケイタイ 090-8957-9288

図 8 参加案内

平成 22 年度（第 25 回）タカラ・ハーモニストファン活動助成報告

表 1 各年のアツバキミガヨラン駆除作業の実施状況

作業予定日	作業実施状況	アツバキミガヨラン駆除量
2010年09月06日	うねりがあり危険のため、作業中止。	—
2010年09月12日	10名が渡島し、約4時間の駆除を実施。	19.9kg
2010年09月20日	7名が渡島し、約4時間の駆除を実施。	13.7kg
2010年09月27日	14名が渡島し、約3時間の駆除を実施。	19.8kg
2011年09月05日	うねりがあり危険のため、作業中止。	—
2011年09月12日	うねりがあり危険のため、作業中止。	—
2011年09月19日	台風15号接近のため、作業中止。	—
2011年09月25日	うねりがあり危険のため、作業中止。	—
2011年10月03日	うねりがあり危険のため、作業中止。	—
2011年10月09日	8名が渡島し、約4時間の駆除を実施。	16.5kg
2012年04月10日	3名が渡島し、約3時間の駆除を実施。	2.4kg
	合 計	72.3kg



図 9 渡島のため乗船する作業参加者



図 10 駆除作業の様子



図 11 駆除作業の様子



図 12 駆除作業の様子



図 13 駆除されたアツバキミガヨラン（2010年9月12日分 19.9kg）



図 14 駆除されたアツバキミガヨラン（2010年9月20日分 13.7kg）



図 15 駆除されたアツバキミガヨラン（2010年9月27日分 19.8kg）



図 16 駆除されたアツバキミガヨラン（2011 年 10 月 9 日分 16.5kg）



図 17 駆除されたアツバキミガヨラン（2012 年 4 月 10 日分 2.4kg）

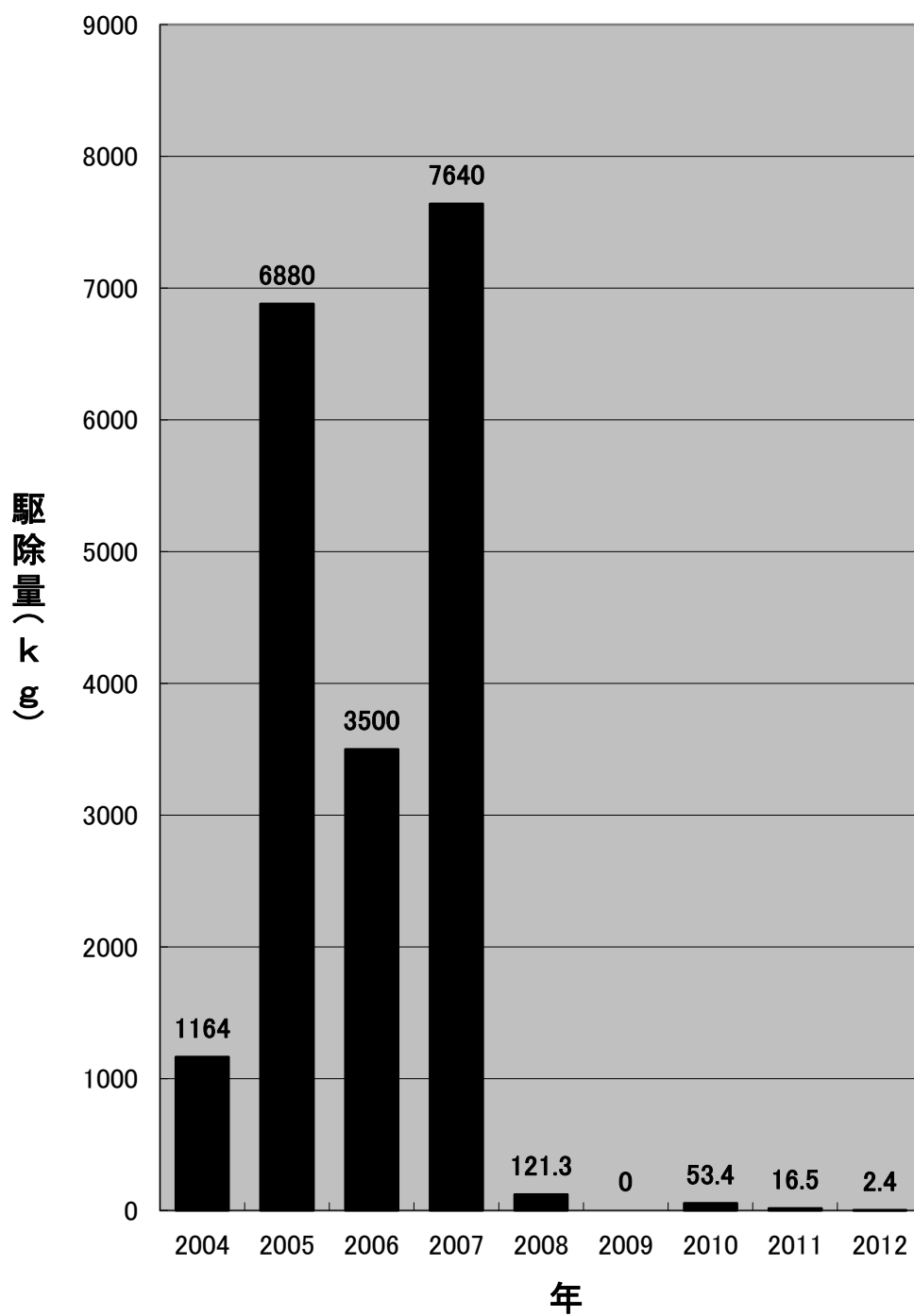


図 19 和具大島におけるアツバキミガヨラン駆除量の推移



図 20 残っていた根から発芽した若い株(2010年9月20日採取、ノート長辺は16.5cm)

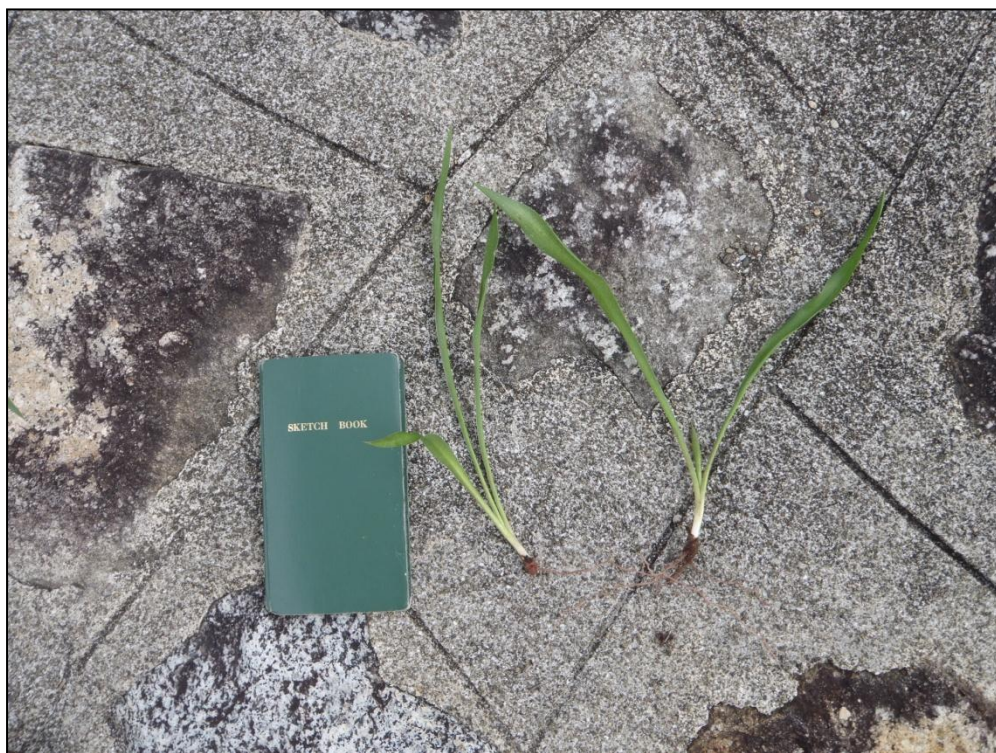


図 21 小さな根のかけらから発芽した若い株 (2010年9月27日採取、ノート長辺は16.5cm)